

1 学校として目指す授業

基礎的・基本的な知識・技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育むとともに、課題解決の過程を大切にし、児童の主体性を高めることを目指した授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語の平均正答率においては、東京都や全国を上回る結果となったが、「知識及び技能」(1)言葉の特徴や使い方に関する事項においては、東京都の平均正答率を下回っており、特に漢字を文の中で正しく使うことができるよう指導をしていく必要がある。 ・算数においても、東京都や全国を上回ったが、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを問う問題の平均正答率は49％と東京都や全国の平均正答率を大きく下回っており、「見方・考え方」を働かせられるような授業を展開していく必要がある。	(20)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」(34)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」(35)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という各質問に対して、当てはまると回答した児童が、それぞれ27.5％、21.6％、31.4％と東京都や全国との割合と比較しても下回る結果となった。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

「どうやらうましくいか考えてから学習を始めるようにしている」という質問に対して肯定的回答が60.5％、「学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている」「学習してもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」に対して、それぞれ肯定的回答をしたのが、67.4％、62.8％となり、この3つの質問は清瀬市の割合と比較して下回る結果となった。また、「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている」という質問に対しては、肯定的回答をした児童が65.1％に留まり、否定的回答をした児童が34.9％に上った。課題解決の過程を大切にし、主体的な学びができる児童を育成するために、学習量を増やすという量的アプローチだけでなく、学習の質をどのように改善するのかという視点を教師がもち、児童が主体的に学習が進められるようにしていく必要がある。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

本校の調査結果は、国語56.0％、算数56.0％となっており、清瀬市の平均正答率（国語：57.6％、算数：56.9％）に対して、国語で-1.6％、算数で-0.9％となった。国語「読むこと」の領域においては、-4.5％、また、算数「変化と関係」の領域においては、-7.0％と清瀬市の平均正答率を大きく下回っていることが分かった。さらに、児童の学力を母集団内で上位から25％ごとに4層に分けた学力層の推移を見ると、下位であるD層の割合が国語で31.0％、算数で32.8％いることが分かった。各教科等において指導の個別化をより推進するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
「東京都統一体力テスト」では、各種目において、全体的に東京都平均より数値が低い傾向にある。また、質問紙調査において「これまでの体育授業で『できなかったことができるようになった』きっかけ、理由はどのようなものがありましたか」という質問に対して、「授業中自分で工夫して練習した」と回答した児童が全学年で29.8％から49.0％の範囲となっており、5割を下回った。児童が主体的に学びを深めていくことができる手だてを講じていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に関しては、学年間でばらつきがあるだけでなく、同一学年内で二極化している傾向が見られるため、協働的な学びをしていく際に、支障が出てしまうことが少なくない。
- ・課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な児童が多い。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことを苦手とする児童が多い。

4 学校全体の授業改善の視点

各教科等における「見方・考え方」を大切に、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育てていく。

- 【授業改善推進プランの活用法】
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
 - ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
 - ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
 - ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
 - ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
 - ⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	教材文や読書活動等を通して、言葉への自覚を高め、順序立てて考える力を養うとともに、自分の考えをもてる学習活動を充実させる。配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導を行う。				数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。			児童の思いや願いの実現に向けて「何をするか」「どのようにするか」を児童と一緒に考え、それを実際にを行い、次の活動に向かっていくような指導を展開していく。		表現についての知識技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫させるような場面を授業の中で多く取り入れる。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見いだし曲全体を味わわせ、考えを交流することで音楽的な見方考え方を広げさせる。		造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。発想が広がるような場や題材の取り上げ方を工夫する。体全体の感覚を生かす活動を取り入れる。				それぞれの運動領域に応じて簡単な遊び方を工夫できるような学習活動を充実させる。考えたことを友達に伝える時間を確保する。				教科書等の教材等から、友達と話し合い、考えをもつことによって、自分の生活で振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童自身が「考える道徳」を行えるようにする。		
中学年	教材文や読書活動等を通して、国語辞典等を使用し、言葉への自覚を高め、筋道立てて考える力を養うとともに、自分の考えをまとめる学習活動を充実させる。配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導を行う。		様々な資料からよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養えるようにするとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養えるよう指導を行う。		数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		実験や観察を通して、問題解決に向けた考察を行う。また、異なる視点を共有し、意見交換を活発に行う時間を設けることで、問題解決に向けた多様な方法を学ばせるとともに、深い学びを促す。		表現についての知識技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫させるような場面を授業の中で多く取り入れる。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見いだし曲全体を味わわせるとともに曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付かせ、考えを交流することで音楽的な見方考え方を広げさせる。		材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して造形的な能力を伸ばすようにする。低学年までに体験した技法や道具を繰り返し扱う場面を設定する。				それぞれの運動領域に応じて自己の能力に適した課題を見付け、その解決のための工夫をできるような学習活動を充実させる。考えたことを友達に伝える時間を確保する。				教科書の教材等から、友達と話し合い、多様な価値観と知り、自分の考えを深め、自分の生活で振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童が考え、また議論する場を設けられるようにする。			
高学年	教材文や読書活動等を通して、国語辞典等を使用し、言葉への自覚を高め、筋道立てて考える力を養うとともに、自分の考えを広げたり、深めたりする学習活動を充実させる。配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導を行う。		様々な資料を多角的な視点で捉えることを通して、我が国の産業、歴史や伝統を大切にして国を愛する心構、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養えるよう指導する。		数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		実験や観察の結果を基に仮説を立て、それを検証する過程を重視する。また、問題解決に向けた考察を書く時間を確保することや、結果を確かめるための再検証をする機会を増やし、深い学びを促す。		表現についての知識技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫させるような場面を授業の中で多く取り入れる。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見いだし曲全体を味わわせるとともに曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付かせ、考えを交流することで音楽的な見方考え方を広げさせる。		材料などの特徴をとらえ想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに様々な表し方を工夫して造形的な能力を高めるようにする。低中学年までに学んだ知識技能以外にも教科横断的な知識も総合して活用できる題材を設定する。		よりよい生活を営むために工夫することができるようにする。そのため、自身の生活の問題解決に向けた考察を書く時間を確保し、結果を確かめ、再構築する機会を増やし、実生活に生かせるように促す。			それぞれの運動領域に応じて自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方、記録への挑戦の仕方を工夫できるような学習活動を充実させる。自己や仲間の考えたことを他者に伝える時間を確保する。		外国語を用いてコミュニケーションを行う目的や場面の状況や状況等に応じて、これまでに十分慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合わせる。		教科書の教材等から、友達と話し合い、多様な価値観と誠実に向き合い、自分の考えを深め、自分の生活で振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童が道徳的な課題を他者と議論し深めている授業を行っている。		